

東日本大震災 全日本民医連支援ニュース

現地の仲間・住民と連帯し「民医連ここにあり」の心意気でともに力を合わせて頑張りましょう！

NO. 24 2011. 3. 31 11:30 発 全日本民医連対策本部

Mail : taisaku-honbu@min-iren. gr. jp

法人からの災害見舞金について

いくつかの法人から対策本部に、「被災地の民医連事業所に直接義援金を送りたいが、損金参加が認められるのでしょうか？」との問い合わせが寄せられていました。対策本部では、厚生事業協同組合のご協力を頂いて、この間、国税庁・事業協同組合中央会などに問い合わせ、相談を行ってまいりました。

本日、厚生事業協役員会で確認され、震災対策本部よりさきほど各県連に通知いたしました(☆添付ファイルをご覧ください)。見舞金を考えておられる法人に急ぎお伝えください。

<問い合わせ先: 震災対策本部/室田>

坂病院への物資の持ち込みについて

支援物資の取り扱いについて、3/23付ア号通達421号でご案内していますように、確保状況等について全日本民医連へご報告いただいています。

つきましては、自車で直接、坂病院に支援に入られる際にも、支援者自身の必要な生活物資にとどめていただき、支援物資については全日本民医連にご報告・集中いただくようお願いいたします。

被災地の地域訪問は、まさに普段の家庭医としてのフィールド。いまこそ必要とされている！

= 地域訪問の支援に入った医師（川崎医療生協）の感想から抜粋 =

25日は、地域訪問に出ました。支援が行き届いていない本当に小さな避難所。1体育館あたり10人規模のところもあります。2ヶ月の子供が、沐浴もできずに経過。若いお母さんはやや育児放棄。同じくらの赤ん坊がいる家族もいましたが、こっちの家族は、『お風呂は使えるが、家にひびが入ってきているため避難している』と。こちらの家族に頼んで、子供だけでもお風呂に入れるよう仲立ち。研修医を中心に素晴らしい支援ができました。

非医療チームとして、聴診器すら持たずに避難所をまわっていたときに、意外と多くの相談をされました。風邪や胃腸炎もそうですが子供の体調の事、ミルクの事、高校生の巻き爪の事、子供の湿疹、家族の体調などなど……、本当にたくさんの相談をされました。フィールドはまさに普段の家庭医としてのフィールドでした。自分たちは今こそ必要とされていると感じました。

現在は、急性期医療の医療は落ち着き始めており、継続的な医療が求められてきていると思います。

支援に入る方へお知らせ

坂病院では、飲料水は復旧しています。出発時に支援者が持参する飲料水は 500ml × 1～2本程度で十分のことです。

= 窪倉副会長・今井次長 福島支援の具体化のため現地へ！ =

小名浜生協病院の地域はまだ水道が復旧しておらず、医療活動・生活に支障をきたしています。原発事故の状況も予断を許しません。看護師の支援要請も出されており、具体的な支援について相談を始めています。

支援者到達(31日現在): 1362人(医師251人、看護師406人、事務378人)!
本日の支援者数は206人! 延べ数は5982人となりました!

◇全日本民医連支援ニュースの活用をお願いします◇

☆状況は刻々と変わります。各県連におかれましては、各事業所にリアルタイムに転送をお願いします。